オンリーワン
加勢　賢一さん（仮名）インタビュー記録

2004 年 7 月 29 日　15 時 45 分～
Ｚ園（仮名）食堂にて
質問、記録：林　佑香

〔　〕内は林

○　加勢さん（仮名）について

加勢さんは現在 42 歳の男性で、Ｚ園には 19 歳の時に入所し、約 22 年間寮で生活されている。病名は骨形成不全症。骨組織の形成障害が原因で、手足の長い骨が折れやすくなる病気である。骨折などによって手足が変形していて歩行が困難なため、車いすを利用している。また、装具は保護目的として左足につけている。現在は印刷科に所属し、主には受注台帳をつけるなどの事務的な作業を行っている。

○　病気について

病名は骨形成不全症。骨が弱くて折れやすくなります。日常生活で気を遣っているのは、何をするのでも力をかけずに、できるだけ自分が自信ないものはやめて無理しないこと。小さいときはそうでもなかったけど今はな。慣れた人でなければ抱いたりはできないし、してもらわないです。自分のやり方っていうのが今までに固まっているんです。ああいう時に失敗したなあ、とか、こういう時にこうしたらよかったなあ、とか。まあ言ったら頭でっかちみたいになってるけど、反対に言ったら自分を守るっていうことになってます。

○　車いすについて

本格的に乗り始めたのは小学校一年生の後半頃かな。それまではなんとか松葉杖ついたり、色々して歩いてたけど、やっぱり折れがひどくて。折れたらくっついても曲がったりするから。どうしようもないから病院に入院したりもしてたんですが。でも左手や全身が折れるから車いすを押せないんですよ。だから押してもらったりしてました。

今の車いすは自分に使いやすいようにしています。例えば〔車輪の〕内側に波〔ゆるやかな波に親指をひっかけて車輪を回す方法によって力がかかりすぎないようにし、回しやすくしている〕が入っていますが、これは皆には入っていません。今は既製品のでもプラスチックのがあるけど、私のはごっつい波々だったら指が当たって痛いから、指が滑っても痛くない感じの軽い波々です。ゆるく、引っかかっても取れる感じです。手が引っかかってとられたらまた折ってしまいますから。私の場合、内側で親指で挟んで押すから、内側に波々が入ってたら便利ですよ。でもオーダーメイドっていっても私が現場に行って作るわけじゃないからなかなか難しいです。たとえ車いす作る業者でもやっぱり人には一回

では分からないですね。やっぱり作る人の基本になるから。なんべんもなんべんも相手に分かってもらえるまで言いました。あの時はああだった、とかいう、それも積み重ねですね。

○　装具について

今はひざ装具っていうのを左足につけてます。四・五年前までは左手に十年以上、十五年くらい使ってたけど、お風呂に入る時に取ってて手を折ってしまって、それ以来使っていません。私の場合は機能をどうこうするというより、カニやエビみたいに中のものを保護するのが目的です。保護して動かさないようにします。新しい装具と交換した後、合わなかったりすることはもちろんあります。痛いです。作るまで時間がかかるので人間は成長していくから。装具は使おうと思ったら十年くらい使えます。私の場合は歩かないし、保護するためだから、自然に駄目になるのはいいけど、乱暴に扱うってことは、装具が駄目になるってことは手足を乱暴に扱ってるってことですから。

○　日常生活について

今は二時くらいに目が覚めるから、四時くらいから出ていって散歩します。暗闇だから危なくないしね、車も通らないし、静かだし。神社を回ってみたり。早く起きるのは昔からですね。学生の頃は誰かに起こされるまで寝てたけど、こっち来てからは自分で、目覚ましとかも使ったことないですよ。こっち来たら緊張するという意味でそんなに深くは寝ないっていうことかな。ここは実家とはもちろん違いますね。

食事は寮にいるので三食とも食堂です。好きなメニュー？あんまりないなあ。若い時は煮たものというよりは、がっつりした感じが好きでしたね。昔はインスタントものを食べ続けてみたり、同じものを食べ続けてみたり、乱暴なこともよくしました。やっぱり若い時はそれでいってたけど、年追うごとに色々と、深刻な病気、内臓の病気になってからはどんどん体質が変わって、自分の考えも変わり、あれこれ食べるようになりましたね。結局食べるものが原因でしょう。直腸が裂けて手術したり、貧血になって輸血するくらいにまでなったこともありました。ここは栄養士さんがいるから食事の面は大丈夫だと思います。

洗濯ですか？洗濯は自分でします。洗濯機は共同で、空いてたらします。誰も干してくれないしね。取り込むのは部屋に昼間来てくれてる人がやってくれたり、自分でもします。

お風呂も自分で入りますね。時間帯が決まってるので、行ける人は行って、みんなで入ります。

○　仕事について

厳密に言えばここは職場でなく、職業訓練施設ですね。労働省でなく厚生省の管轄ですから。仕事内容はまあ、印刷科ってなってますけど、私の場合は印刷科の事務みたいなも

のですかね。パソコンに受注台帳をつけたり、明細つけたり、買った分の台帳をつけたりとその他諸々です。例えば紙が無かって買ったとしたら、どこから買って、何月何日に届いて、いつ払い出したっていうのをつけていきます。それがまた監査でいりますからね。主には事務関係の仕事ですけど、版下作ったり、何でも手が空いてたらします。印刷科って刷るばかりでもないんですよ。もちろん刷る人もいますし、版下作る人もいて、出来上がったものを包む人もいて、それが一緒になって印刷科ですからね。収入はあくまでも出来高払いです。まあ日雇いのようなものですよ。仕事で楽しかったっていうのはないですね。大体苦手なものばかりしてますから。印刷科の前は和裁科だったんです。着物縫ったり帯縫ったりしてました。和裁科は「行ってみたら？」って言われて、まあ言われたからにはとりあえず投げ出したら駄目だと思って五年くらい続けました。印刷科にも漢字とか全然知らないのに行きました。台帳とかパソコンは教えてもらいながらですね。

○　家族について

家族と会うのはまあ、月二、三回かな。実家には月に一回か、帰らないときもありますけど。なかなかね、帰って面と向かって話することもないし。やっぱりここが自分の生活の中心になってるから。本当は向こうでなくてはいけないんだろうけどね。ここはあくまで仮住まいってことにしとかないといけないんだろうけど。実際本当にここが中心になってますね。

○　休日について

休日は日曜日と隔週の土曜日です。それも行事が間に挟まってつぶれることもあるけど。休日はテレビ大好きだからテレビ観たり、外をぶらぶらしたりかなあ。映画もだいぶ行ってないですね。若い頃はよく行ってましたけど、やっぱりなかなかね、こうしようかっていう時にはすごくエネルギーがいるし。何かのきっかけがなかったら難しいっていうか、動きがね、やっぱりできないっていうかな。

買い物は大好きですよ。コンビニ大好きですから。コーヒーが好きで百三十円くらいでカップに入ってる種類をずっと買ってます。外に行く時は電動車いすに乗って行きます。そうじゃなかったら外は自分で行けないんですよ。今この車いすも平らな所で斜めになってるとか色々条件があるんです。これ自身が曲がってるから、方向がちょっと、普通の人が乗ったら曲がっていくんですよ。だからちょうどいいんですけどね。実際は左手なしで、足がちょっと動いてるだけだし、あまり力がないからこれで外へは行けないですね。中でも電動車いす乗った方が体がこう、まっすぐなるから、楽なのは楽なんですけど。誰かと一緒に行く時は、電動車いすの後ろにつかまって、引っぱって行ってあげるとか色々あるけど、大体一人が多いですね。

散髪も行きますよ。自分で、ここだったら階段もないし、入ってそこの店の人もしてくれるなあと思ったら行きます。まあ色々ありますからね。入って、しにくいなあっていう

人もいるし、店が狭かったら無理なところもあるし。今は決まった店があります。散髪で色々されるのが大嫌いなんですよ。顔剃るとか、もうシャンプーも何もいらないから、切るだけ、カットだけ。それをしてくれるところへ行きますね。

○　Ｚ園での生活について

ここでの生活は〔昭和〕五十七年からだから二十二年か。十九の時に来たからね。Ｚ園開園の時から。若かったですね。開園当初からいる人もまだたくさんいます。後から来た人には、聞かれた時はもちろん教えるけど、先頭になってするっていうのではないですね。職員がいますから。私が来た時はずっと年上の人ばかりで、私が一番若かったですね。まあ反対に言ったら何でも言っても許されるって類でしたね。今はもう違いますね。下にだいぶできましたから。

こっちに来てどう変わったか？夢をあまり持たなくなりましたね。こう、何がしたいっていうのが、うん、年とるごとにね。こっち来た時はもちろん、ありましたよ。すぐ辞めるって気でいましたから。五年くらいいてもすぐ辞めないといけないなあってずっと思ってました。なかなかそれがうまくいかないんですよね。やっぱり自分の体の状況もあるし、引き取ってくれるところもないし、って言ったら。なかなか、自分に合うとこってね。今のように、私らみたいなのが外へ出てこう、何とか一人で生活するとか、色んなあれっていうのはなかなかない時代でしたから、当時は。今のような、ノーマライゼーションがどうのこうのって世間的にはなかったから。自分の夢っていうのは、いつかこういうとこにいないで、出たいな、とは思ってましたね。もしくは違うところに行きたいなって。うーん、今はまたそういう風な気持ちにはまたちょっとなってますね。他の成功した人のこととかも聞いたり見たりしますし。やっぱり今だったらこう、結構多いですよね。重度の人でも一人で、いろんな人の支援を受けながらやってるって人がたくさんいますよね。そんなのを見せてもらったら、自分でもやってみたいなっていう気持ちにはなってますね。自分が年とるにつれて親も年とるし、特別っていうのは無理だろうけど、やっぱり自分なりのこう、一人で、実際一人ではないんだけど、なってみて、やったってことを親とかいろんな人に安心というか、見せてやりたいっていうか。そういう意味でのけじめっていうかな。頭で思っててもね、きっかけとかもいるしね。そのきっかけさえあればね、いいんだけど。それと自分自身の体力とね。

ここの住み心地？二人部屋っていうのはやっぱりなかなか難しい面もありますね。かえって十人くらいで一緒にいるほうが易しいと思います。けれどまあ、それも慣れですね。お互い干渉しないっていうのがいいですよね。でも冷たいとか知らん顔っていうのではないですよ。あれこれ詮索しないことが大事ですね。ここで一番便利なことは、市内から中心部とまではいかないけど、中心部だったら反対にやかましいけど、ちょっと離れたところで交通の便もいいし、お店もたくさんあるし。ちょっと国道から入った所だから静かだし。立地条件は最高だと思います。それが何よりの一番好条件ですね。バス停もあるしね。

幸いにしてノンステップバスの停留所もあるし。〔バスは結構〕乗りますよ。
　最近の楽しみ？楽しみねえ、うーん、何だろ。（沈黙）楽しみってあんまり、言われてみたらだらだら生きてるなあって。どうだろ、楽しみねえ、ちょっと今は分かりませんね。

○　部屋の工夫について
　いらないものは上へ、いるものは自分で取れる所へ。ちょっといらないものは奥へ入れといて、棒とか、ごみを挟むやつがあるでしょ、大きい金ばさみっていう、そんなので取ってみたり。まあどうしてもな、下に落ちたらこれ取ってって言わないといけないし、もうそんなのがいちいちめんどくさいんですよ。それだったら挟むもの持ってきてそれで挟めっていう感じ。部屋には棒とかあるだけですよ。カーテン閉める時には棒で。ベッドは車いすの高さだったら、〔ベッドに〕下りる時はいいけど、今度〔車いすに〕上がる時は力がいるから。だからちょっと高いめくらいだったら〔ベッドに〕上がったりできるけど、今度〔車いすに〕下りる時は高かったら楽に下りれるからね、ちょっと高くしてます。〔ベッドの下に木の板を挟み、ベッドが少し高くなるようにしている。〕ベッドの横にリモコンとか置いてみたりね。いらないものは上へ置いといて、いるものは手前に置いて。そんな感じです。

○　感想
　インタビューを終えてみて、事前に、聞きたいことを整理し、質問項目を考えておくことの大切さを感じた。一人でインタビューするのは今回が初めてということもあり、質問項目はできるだけ具体的な内容を書いておくようにした。インタビュー中も、話を聞いてメモを少し取るのが精一杯だった。しかし後から考えると、途中もっと話を広げたり、分からなかった所をもっと深く聞いたりすることもできたのではないだろうかと思う。質問項目にこだわらず、その場の流れに沿ってインタビューすることは難しいが大事なことだと感じた。
　加勢さんは、開園当初から入所されていて、Ｚ園での生活は二十二年。寮での二人部屋の生活も慣れたとおっしゃっていたが、「こっち来たら緊張するという意味でそんなに深くは寝ない」そうで、二時くらいに目が覚めるとお聞きして、寮生活に慣れていても、やはり実家とは違って、気が抜けきれていない部分があるのかもしれないと感じた。また、目が覚めて四時くらいから散歩されるそうで、その理由として、「暗闇だから危なくないしね、車も通らないし、静かだし。」とおっしゃっている。長年の寮生活を経験される中で、一人になれる時間、ひいては自分が自分である時間を持つことを大切にされているのかもしれない。テレビが大好きで、休日は主にテレビを観たり、外をぶらぶらして過ごされるそうだ。買い物も好きで、毎日散歩したり、コンビニにもよく行かれるとのことだった。
　「Ｚ園に来て何か変わったことはありますか？」という質問について、「夢をあまり持たなくなった」とおっしゃったことが印象に残った。加勢さんが入所された当時は、「いつか

は出たい、もしくは違うところに行きたい」と思っていても、「今のような、ノーマライゼーションがどうのこうのって世間的にはなかった」そうで、自分がやりたいことを実現させようと思っても、そのためのチャンスや支援体制などがなく、自分の道を選択していくのが難しい状況、社会だったのではないかと思う。仕事は苦手なものばかりやってきたとおっしゃっていたが、誰にでもできることではなく、何か一つ、オンリーワンを大切にしているとのことだった。

また、Ｚ園について「厳密に言えばここは職場ではなく、職業訓練所」「ここはあくまで仮住まいってことにしとかないといけないんだろうけど」と述べていることから、Ｚ園を自分の定まった職場、定住地としては捉えていないことが感じられた。

寮の部屋も見せていただいたのだが、落ちたものを取るための金ばさみや、カーテンを開け閉めする時の棒などが置かれていて、ベッドは登り下りがしやすいように少し高めにされていたり、リモコン類は使いやすいようにベッドの横に置かれていた。自分にとって使いやすい空間にするための工夫がされていて、長年の経験の中で、少しずつ自分に合った方法を見つけていらっしゃるのだなあと感じた。

【写真１：金ばさみで包帯を拾う（2004.8.4)】